

## これから手術を受ける患者さまへ

### ――― 麻酔科からのお知らせ(麻酔法の概略について) ―――

手術前に、良くお読みください

#### ■麻酔とは？

麻酔は、手術操作による痛みを取り除くほか、手術によるストレスを和らげ、体が受けるダメージを減らすことを目的としたものです。手術中の大出血による血圧低下など、突然起こるさまざまな状態変化に対応するのも麻酔科医の役目です。

#### ■麻酔方法

麻酔は、意識があるかどうかで全身麻酔と局所麻酔に分類されます。局所麻酔には、脊椎(せきつい)麻酔、硬膜外麻酔、伝達麻酔、局所浸潤麻酔、表面麻酔などがあります。一般には、手術の種類や患者さんの状態によって麻酔方法を決定しますが、患者さん自身の希望で選択することが可能な場合もあります。多くの場合、手術の前日、手術室のある10階の説明室で麻酔前の説明を行なっています。独歩困難な患者様については、こちらからお部屋に伺います。どんなことでも、遠慮なくご質問ください。

#### ■麻酔の仕方について

当科医師が担当する麻酔の方法には、次のようなものがあります。

- 全身麻酔       脊椎麻酔       硬膜外麻酔       伝達麻酔

これらのうちのいくつかを併用することも、よく行ないます。

また、脊椎麻酔や伝達麻酔の場合、効果が十分でないときや手術時間が延長したときには、全身麻酔に変更することがあります。

一般に、手術終了後は、麻酔から覚醒し全身状態が安定するまで手術室内で観察し、その後病室に帰室していただいています。

## ◎全身麻酔

肺からの吸入や静脈内に投与した麻酔薬が、中枢神経(脳)に作用して痛みや手術のストレスを感じなくさせます。麻酔中は意識がなくなります。

手術後は、吐き気や喉の痛みを感じたり、声がかすれたりすることがありますが、しばらくすると改善します。ぐらぐらした歯があると、まれに折れたりはずれたりすることがあります。手術中は、できる限り安楽な姿勢をとれるよう心がけていますが、手術に必要な体位をとることにより、まれに関節痛や神経障害をおこすことがあります。

## ◎脊椎麻酔

脊髄が入っているくも膜下腔という部分に局所麻酔薬をいれて、神経を麻痺させます。横向きになって(あるいは座位で)、腰の背中側から細い針を刺します。少量の麻酔薬で下腹部以下の広範囲の無痛が得られますが、長時間の手術には不向きです。触った感じは残ることが多いのですが、痛みは感じなくなります。手術中は意識がありますが、状況によっては軽い鎮静薬で眠っていただくこともあります。

合併症として、血圧の低下、吐き気、頭痛、神経障害、一時的に尿が出にくくなったりすることなどがあります。

## ◎硬膜外麻酔

硬膜外麻酔は、手術操作による痛みを取り除き、手術によるストレスを和らげ、体が受けるダメージを減らす優れた方法として、現在広く行われている麻酔法です。首から下の多くの手術が対象になります。局所麻酔薬を、脊髄の近くの硬膜外腔という空間に注入し、感覚を麻痺させます。横向きになって、背中から針を刺します。一般には細い管を入れ、そこから反復して薬を注入するので、術後の痛みを抑えることに利用できることも特徴です。この麻酔法も意識は残りますが、しばしば全身麻酔と併用します。この場合には意識はなくなります。

合併症として、局所麻酔薬中毒、頭痛、神経障害、局所の感染などがまれに起きることがあります。

## ◎伝達麻酔

局所麻酔薬を手術をする場所から離れたところの神経に注入し、そこから先の神経の感覚を麻痺させます。全身への影響が少ない方法ですが、長時間の手術には向きません。

### ■手術前後に守っていただきたいこと

たばこは、痰を増加させ、気道を過敏にし、血液の酸素運搬を障害します。傷の治癒を遅らせることも知られています。手術を無事に乗り切るために、手術前の禁煙をお願いします。禁煙が守られていない場合、当科の判断で手術を延期させて頂くこともありますので、ご承知おきください。

麻酔中に嘔吐すると、重症の肺炎になることがあります。安全に手術を受けるために、指定した時間以降の飲食を禁止させていただきます。

手術の前後は、普段飲んでいる薬の量や種類が変更になることがあります。術前の指示に従ってください。また、麻酔管理をさらに安全、円滑にするため、手術室入室前に数種類の薬を内服していただくこともあります。

### ■おわりに

人間は、呼吸や血圧など生命の維持に必要な機能を自分で調節する能力を持っています。しかし、麻酔薬はこれらの能力を抑えるため、麻酔中は呼吸や血圧の維持を自分でできない状態にあります。出血や薬剤のアレルギー反応など思わぬ事態も不利に働きます。麻酔科医は、患者さんの生命を維持するために、呼吸や血圧、心電図などを厳重に監視し、人工呼吸を行ったり血圧を調節する薬を投与したりしています。

麻酔の方法などに関してわからないことがありましたら、麻酔科医の術前説明時のほか、いつでも麻酔科に主治医、または看護師を通じてご質問ください。

平塚共済病院 麻酔科

清水 功

手術前の患者様は

# 喫煙厳禁

術前の喫煙は、術中・術後の呼吸・循環に悪影響を及ぼし、傷の治りも悪くします。喫煙が発覚した場合は、当科の判断で手術を延期させて頂くこともあります。手術を受けるあなた自身のため、安全な麻酔管理のために禁煙が必要です。ご理解ください。

麻酔科部長 清水 功